

1

今年度の結果と取り組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

○●国語●○

国語A (領域ごと) ①話すこと・聞くこと やや課題の残る結果でした。 ②書くこと やや課題の残る結果でした。 ③読むこと 概ね良好な結果でした。 ④言語事項 やや課題の残る結果でした。 (問題形式) ①口折式 やや課題の残る結果でした。 ②短答式 課題が残る結果でした。 ③記述式 出題なし (無解答率) 概ね良好な結果でした。 (その他) 学校の特徴的なことについて記入 ・もっとも正答率の高かった設問 語句の正しい用法を選択する。(「とりあえず」) ・もっとも正答率の低かった設問 語句の正しい用法を選択する。(「急がば回れ」) ・もっとも無解答率の高かった設問 漢字を書く。(「紹介」) ・もっとも無解答率の低かった設問など 選択式の設問。(選択式10問/20問)	国語B (領域ごと) ①話すこと・聞くこと 出題なし ②書くこと 課題が残る結果でした。 ③読むこと 課題が残る結果でした。 ④言語事項 課題が残る結果でした。 (問題形式) ①選択式 やや課題が残る結果でした。 ②短答式 出題なし ③記述式 課題が残る結果でした。 (無解答率) 概ね良好な結果でした。 (その他) 学校の特徴的なことについて記入 ・もっとも正答率の高かった設問 項目として適切なものについて選択する。 ・もっとも正答率の低かった設問 目的に沿って話し合い、互いの発言を整理する短答式。 ・もっとも無解答率の高かった設問 資料から適切な情報を得て、伝えたい事実等を明確に記述する。 ・もっとも無解答率の低かった設問など 選択式の設問。(選択式3問/6問)
--	--

分析

「読むこと」に関しては、大まかな内容の把握はできていて、複数の資料から必要な情報を読み取り選択する問題については、府平均より上回る問題もありました。

「書くこと」では、主語を置き換えて書き直すものや短答式のものに課題が見られます。また、記述式になると、正答率が大幅に下がり、文章や資料を細部まで深く読み取り、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを表現する力に課題が見られます。

さらに、表現技法を選択する比較的やさしい問題や、歴史仮名遣いにおいて、知識の定着に課題が見られ、また、漢字を書く・語句の意味を理解して適切な文脈の中で適切に用いる力においても課題が残っています。これらのことから、日常生活における言語活動の乏しさが伺われます。

数学A

(領域ごと)

- ①式と計算
課題が残る結果でした。
- ②量と測定
課題が残る結果でした。
- ③図形
課題が残る結果でした。
- ④数量関係
課題が残る結果でした。

(問題形式)

- ①選択式
課題が残る結果でした。
- ②短答式
課題が残る結果でした。
- ③記述式
出題なし

(無解答率)

やや課題が残る結果でした。

(その他)

学校の特徴的なことについて記入

- ・もっとも正答率の高かった設問
4(1)図形・短答式
- ・もっとも正答率の低かった設問
13(1)資料の活用・短答式
- ・もっとも無解答率の高かった設問
9関数・短答式
- ・もっとも無解答率の低かった設問
5(2)(4) 6(1)(2)(3) 7
10(2)(3)(4) 関数・図形の
選択式

数学B

(領域ごと)

- ①式と計算
課題が残る結果でした。
- ②量と測定
やや課題が残る結果であった。
- ③図形
課題が残る結果でした。
- ④数量関係
課題が残る結果でした。

(問題形式)

- ①選択式
やや課題が残る結果でした。
- ②短答式
課題が残る結果でした。
- ③記述式
課題が残る結果でした。

(無解答率)

やや課題が残る結果でした。

(その他)

学校の特徴的なことについて記入

- ・もっとも正答率の高かった設問
1(2)図形・選択式
- ・もっとも正答率の低かった設問
4(2)図形・短答式
- ・もっとも無解答率の高かった設問
3(2)関数・短答式
- ・もっとも無解答率の低かった設問
1(1)(2)図形・選択式

分析

全体において正答率が低かったです。特に、計算問題やことばの意味を問う問題が低かったです。図形では、「図形の性質を用いて説明する問題B 1 (3)」のように府平均より上回っているものもありました。このことから、図形などの感覚的な問題は比較的高いですが、復習を必要とする問題に課題があると考えられます。

正答率については、Aは選択式も記述式も同じように低いですが、Bは選択式のほうが記述式よりやや高かったです。

無解答率については、A、Bとも選択式のほうが記述式よりかなり低かったです。

このことから、選択式の問題なら分からなくても取り組みうとしていると考えられます。

逆に、記述式など難しい問題になると、途中であきらめたり、最初から取り組みない傾向がありました。

〇●経年比較●〇

全体的な傾向についての分析

平成 19 年から、7 回の全国学力調査をしていますが、引き続き課題の残る結果でした。

全体を通して全国平均より正答率は低いです。

国語では、発展的な思考・記述が求められる B 問題に課題が見られました。

数学では、基本的な計算などで課題が見られ、基礎基本が苦手なために、発展的な思考・記述を求める B 問題で引き続き課題が残りました。

学力高位層と学力低位層についての分析

学力高位層（80～100%）は、例年より少し低く、全国平均よりもかなり低いです。

学力中位層（40%～80%）の人数は、例年より多く、全国平均よりも高かったです。

学力低位層（0～40%）は、例年よりかなり多く、全国平均の人数より多いです。

〇●取り組み●〇

学力向上に関する取り組み

小学校から中学校への授業がスムーズに入れるようにするために、平成 25 年度から授業での共通実践項目（授業環境を整える目的とした 4 項目と授業内容をわかりやすくするための工夫の 4 項目）を実践し、さらに、話し合いがうまくできるようするために、小中での話し合いのルールも実践しています。

教師の指導力を高めるために、年 3 回の授業力向上研修会を持っています。

平成 26 年度から、全学年で「目標に準拠した評価」で、評価規準や評価基準を考え、授業での活動や普段の頑張りを評価の中に取り入れ、生徒のやる気をさらに一層引き出すようにしています。

また、教師側も授業力改善の一環として、わかりやすい授業や生徒のやる気を引き出すための授業の工夫など、日々実践に努めています。

以前（今より 6 年前）の全国学力調査の結果で、家庭学習を全くしない者の割合がかなり高く（全体の 20% 弱）、家庭学習を定着するねらいで、「自主学ノート」を毎朝提出させています。

また、読む力をつけ、さらに将来への展望を持たせるために、読書は有効な手段であるので、毎朝 10 分間の「朝読」を実施しています。

さらに、学力の定着をはかるために、各教科とも「宿題」を定期的に出しています。

生徒のやる気を引き出すことを目的に、校内で年 3 回の漢字検定と英語検定を実施しています。

今年度から、大学生のボランティアを活用して、放課後に「補習」という学習会を、週に 5 回（行事などで中止になる場合あり）実施しています。今は、3 年生が火曜日と木曜日の 2 クラス、2 年生が木曜日に 1 クラス、1 年生が金曜日に 2 クラスの補習を開講しています。（1 クラス 20 名位を定員としています。）

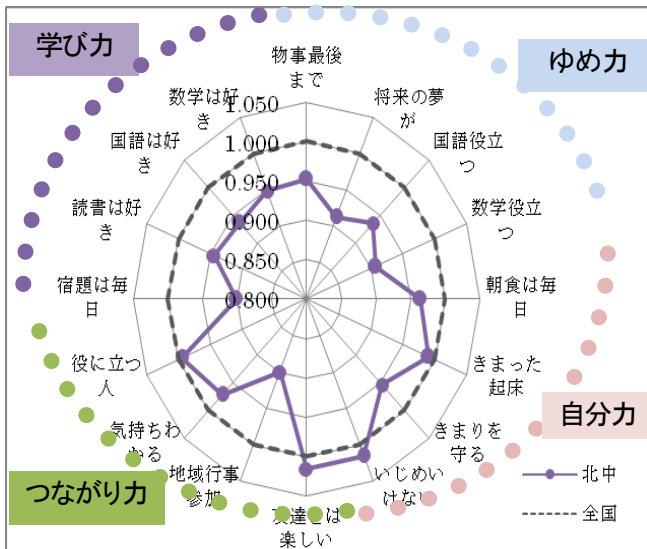
また、3 年前から、茨木っ子学習教室を、耳原公民館と福井公民館で夕方に開いています。

どちらの取り組みも、生徒にアンケート調査をし、希望者を募って実施しています。

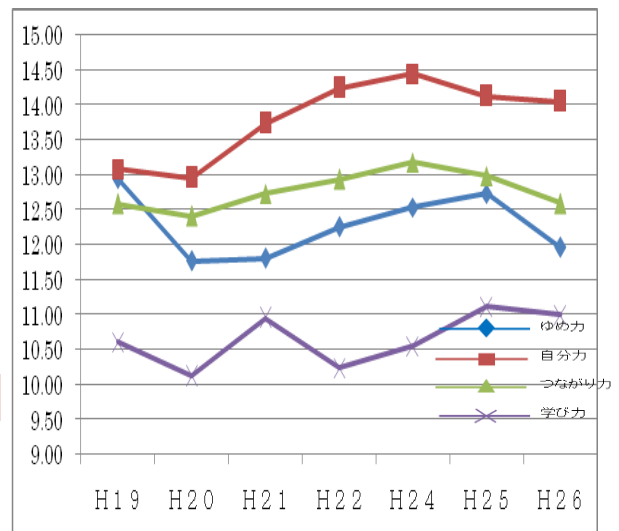
さらに、定期テスト前には、どの学年も学習会を実施しています。

○●子どもたちに育みたい力●○

今年度の結果



これまでの推移



分析

ゆめ力について…どの数値も全国平均より低い値となっています。また、「難しいことでも挑戦する」や「今回のテストを最後まで解こうと努力した」の質問項目も低かったです。

夢や目標を持たせることが、最後まであきらめず頑張ることにつながるということがわかります。

自分力について…「いじめはいけない」では、全国平均より高かったです。「毎日同じ時刻起きている」でもほぼ同じ位なのですが、北中生の生活実態調査（昨年12月実施）での午前7時30分以降に起きる者が、全体の30%とかなり高く起床時間に課題が見られます。

また、「規則を守る」の数値が少し低かったです。

つながり力について…「地域行事に参加」の項目は、全国平均よりも低いですが、都会の生徒に特有な現象で、他の項目は、全国平均と比べても遜色ありません。

学び力について…4つの項目とも全国平均値よりかなり低いです。今の北中生の大きな課題です。

取り組み

ゆめ力を高めるために…キャリア教育や進路教育を中学3年間で計画的に進めています。

キャンペーン集会での生徒会活動や学校通信・学年通信・進路通信・あすなろ・学級通信を通して、子どもたちの意識向上につとめています。

自分力を高めるために…中学3年間でも、最終学年である3年生の時が、学校生活全般で一番充実するよう日々指導に当たっています。特に行事では、体育祭での集団行動や合唱祭でのミュージカルと難しいことに挑戦させています。

いじめについては、日々の学活や生活の中で指導し、キャンペーン集会でもいじめ撲滅をめざして、子どもたちの心に迫る取り組みをしています。

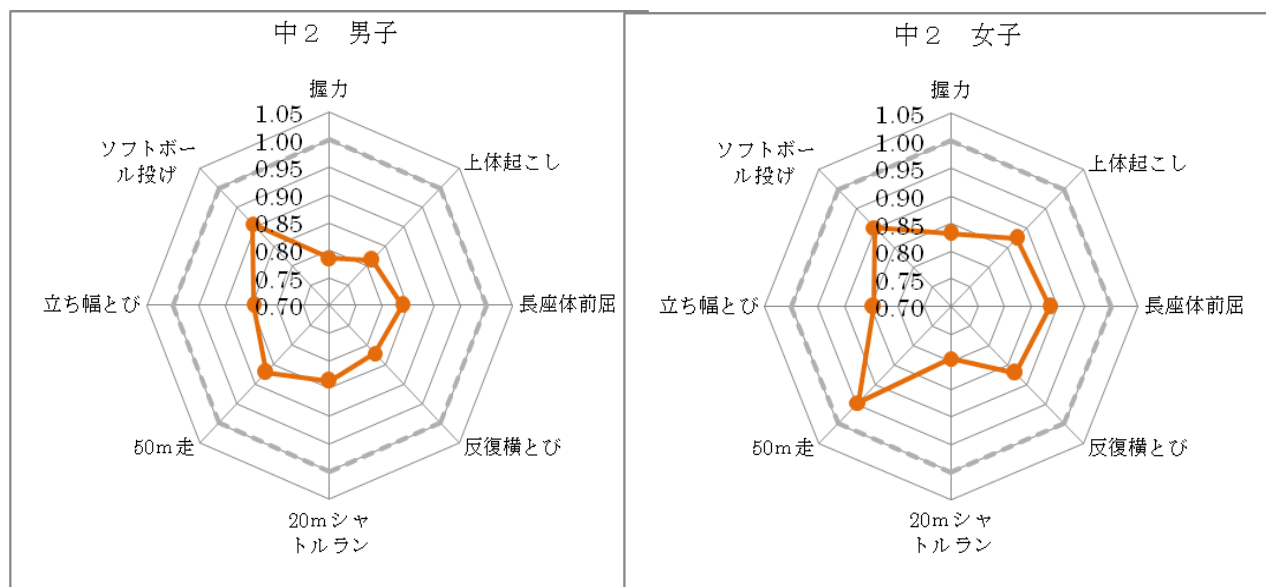
つながり力を高めるために…班活動に重きを置いています。班長会議や合同班長会議など班を中心に一人一人のつながりを持たせるようにしています。生徒会の委員会活動を定期的に全学年同時に開き、リーダ層の育成と学年を超えたつながりを持たせています。

学び力について…学ぶ意欲を持たせるために、自主学ノートを活用し、朝の読書タイムを取っています。年3回の漢字検定や英語検定を実施しています。宿題などの課題も定期的に出し、観点別評価の関心・意欲として評価をしています。

授業での小中共通実践項目や話し合いのルールを作り、学習環境を整えています。

(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○



分析

男女とも、全国平均を大きく下回る結果となっています。特に、男子の握力や女子の 20m シャトルランでは、全国平均の 8 割に満たない結果となっています。また、男子の方が全国よりも体力が劣っています。

体格で見れば、男子では全国平均から身長が - 1.18cm (99%)、体重が - 2.36kg(95%)で、また、女子では身長 - 0.72cm(99%)、体重 - 1.6kg(96%)ですので、体力測定の記録値との差ほど劣っているわけではありません。さらに、女子の 3 年生の身長に至っては、全国平均より 0.24cm 上回っていますので、体格ではなく、運動能力が劣っていることがわかります。

一方で、3 年の上体起こしと長座体前屈などでは、2 年時に実施した記録が、今回より良いので、体力テストを真剣に取り組んでいないことも考えられます。

体力測定で一斉に行う状況は茨木市内の他校と同じように実施しているわけだから、何事にも自分たちからすすんで真剣に取り組むようにすることと、しっかりやりきるようにという声かけが必要と考えます。

取り組み

体力測定を真剣に取り組ませ、自分たちの体力が中学 3 年間でどれだけ向上できるか一人一人目標を持たせています。

体育の授業では、基礎体力を向上させる取り組み（筋トレ、体操など）をしっかりとやらせています。

さらに体育の時間の見学者を出さないように学校・学年上げて取り組んでいます。

放課後の部活動の中で、基礎体力と柔軟性が向上するように、指導者の研修会を持ち、職員一人一人の意識の向上をはかる。それに伴い、生徒にもできるだけ部活動に入部するよう呼びかけています。

昼休みの有効な活用の仕方考えます。

かつて体力は、子どもたちに「遊び」の中で向上してきた側面があったことに注目をし、昼休みグラウンドで体を動かすことをすすめ、さらに一定のルールのもと、体育館の開放も考え、運動の苦手な生徒も楽しみながら体力の向上がはかれるようにします。(次年度以降)

具体的には、エアロビ・ダンスなど楽しみながら体力向上ができる取り組みです。

2

3年間の計画

	(各校)	(各校)	(ブロック共通)
	学力向上	体力向上	中学校ブロック連携
目標	自ら学び、自分の課題に対して意欲的に努力する生徒を育てる	自分の体力向上に意識して取り組める生徒を育てる	目標に向かって最後まで努力できる生徒を育てる
平成26年度	<実態調査> ・全国学力調査と生活実態調査(4月)の分析と課題を克服するための研修会の実施 ・全学年生活実態調査(2学期末)の実施 ・1・2年チャレンジテスト(1月)の実施 ・数学の計算でのつまずきの把握(1・2年) <授業改革> ・生徒のやる気を引き出すための授業研究 ・年3回授業力向上研修会の実施 <学力向上のために取り組み> ・朝の読書タイムと自主学ノートの実施 ・年3回の漢字検定と英語検定の実施 ・放課後の補習(大学生のボランティア)の実施と校外での茨木っ子学習教室の開催 <連携> ・授業に関する共通実践項目の実施	・体力測定の正確な実施 ・体育の授業で基礎体力の向上 ・部活動の指導者の研修会(具体的にどのようにすれば生徒の基礎体力や調整力が向上するか研修) ・遊びの中で基礎体力をつける取り組みの検討(次年度以降)	・小中連携担当・学力担当者会(月に1回程度) ・夏季研修会(集団づくり、班編成の交流) ・授業で共通実践項目を実施 ・旧小6担任の中学1年の授業参観と交流(1学期) ・中学3年教師が各小学校の6年の授業参観(1学期) ・英語教育推進担当者会議 ・出前授業・参観 ・合同授業研修(道徳)3学期 ・各学校での5つの力の分析報告
平成27年度	平成26年度の取り組みの継承と深化 <授業改善> ・生徒のやる気をさらに引き出し、学力向上につなげるための工夫と改善 <学力向上の取り組み> ・補習のさらなる充実 ・わからない生徒を減らす取り組みの強化 ・計算技能を高めるための実践 ・全校あげて、書く力と表現する力を高めるための取り組みの実践 ・朝の読書タイムの有効的な活用 <連携> ・5つの力の向上をめざし、校内のそれぞれの委員会で具体的対策の考案と実践	平成26年度の取り組みの継承と深化 ・生徒一人一人が目標を持ち、意欲的に取り組む体力測定の実践 ・体育や部活動で意識して体力向上や調整力を高める取り組みの実践 ・昼休みに、遊びを取り入れた体力向上の具体的な取り組みの実施	平成26年度の取り組みの継承と深化 ・教科別連携(研修会と授業交流) ・5つの力の課題を克服する取り組みと成果の中間報告(共通する委員会で検討) ・1年間のなかで、旧小6担当と中学3年担当による引継ぎ強化(年に複数回の授業参観、情報交換会を実施) ・2学期末に5つの力についてアンケート調査
平成28年度	平成27年度の取り組みの継承と深化 <学力向上の取り組み> ・わからない生徒を減らす手立ての実践 ・計算力と表現力をさらに高める取り組みの実践 <連携> ・5つの力についてさらなる成果が出せるような取り組みの深化 3ヶ年の成果の分析と課題の把握をし、新たな学力向上のステップアップ計画の作成	平成27年度の取り組みの継承と深化 3ヶ年の体力向上の成果の分析と課題の把握をし、新たな体力向上のステップアッププラン計画の作成	平成27年度の取り組みの継承とさらなる深化 ・教科別評価について交流と共通理解を深める ・5つの力の課題克服に向けて取り組んだ成果の交流 3ヶ年のステップアッププランの総括と新たなステップアッププランの構築